※令和４年度以降入学生用

学校番号	203

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	『詳説日本史』　（山川出版社）						
副教材等	『ウィニングコンパス日本史の整理と演習　２０２６』（東京法令出版） 『最新日本史図表』　（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・年号や用語の機械的な暗記ではなく、教科書に基づいて、歴史的な文脈のなかで歴史的事象を理解することを大切にします。ただし、基礎的な知識は、正確な理解に不可欠なものです。
・基礎的な知識は、授業でも扱いますが、『ウィニングコンパス日本史の整理と演習　２０２６』（東京法令出版）を用いた家庭学習も合わせて行い、習得をめざします。
・教科書の本文を理解するために、『最新日本史図表』（第一学習社）を活用して、学習する時代を具体的にイメージしながら、理解を深めていきます。

2　学習の到達目標

知識及び技能
・２年生での歴史総合の学習を踏まえて、世界情勢と関連づけながら、日本の近現代史について基本的な知識を身に着ける。
思考力・判断力・表現力等
・習得した歴史的な出来事に関する知識、資料の読み取りを通して歴史的思考力を身につける。
学びに向かう力、人間性等
・日本の近現代史を学ぶことで、日本史に対する興味・関心を高めるとともに、歴史的な見方を通じて、現代社会に対する理解と、社会をよりよくしようとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a：知識及び技能	b：思考力・判断力・表現力等	c：学びに向かう力、人間性等

※令和４年度以降入学生用

観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	近代国家の成立	1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	a:明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。 b:諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。国内体制を欧米の水準に合わせることが改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。 c:明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。自由民権運動	定期考査	定期考査 ワークシート レポート	ワークシート レポート

※令和４年度以降入学生用

			の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。			

※令和４年度以降入学生用

	近代国家の展開	1 日清･日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	a:日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国･朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。 b:議会が戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的･多角的に考察し、表現している。 c:対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。 対外戦争がもたらした国内的･国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 ワークシート レポート	ワークシート レポート

※令和４年度以降入学生用

2	近代産業と生活	1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化	a:産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究、欧米の科学技術の導入、教育の普及・拡充について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。学問・芸術・出版・マスメディアの発展について諸資料から情報を読み取り、欧米文化との関わりとその浸透度、社会風潮との関連を理解している。 b:地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。学校教育の必要性の説かれ方や、学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現している。都市の発達、鉄道・駅の設置やその影響、工場の増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。 c:産業の発展とそれによる社会問題への対応について課題を見出し、自ら主体的に追究しようとしている。明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することを通じて、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。マスメディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、自ら主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 ワークシート レポート	ワークシート レポート

※令和４年度以降入学生用

	恐慌と第二次世界大戦	1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	a:国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。 b:ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向によって次第に緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現している。当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。 c:当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の議論について考察したりして、課題を主体的に追究しようとしている。満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係につい	定期考査	定期考査 ワークシート レポート	ワークシート レポート

※令和４年度以降入学生用

			て主体的に課題を追究しようとしている。			
	占領下の日本	1占領と改革 2冷戦の開始と講和	a:第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を読み取り、サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義について理解している。 b:戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現している。 c:現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課題を追究しようとしている。	定期考査	定期考査 ワークシート レポート	ワークシート レポート

※令和４年度以降入学生用

	高度成長の時代	1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ	a:保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目して、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活や地域社会の変化に関わる諸資料から情報を読み取っている。 b:日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合への加盟、新安保条約・ＬＴ貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現している。日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現している。 c:55年体制の歴史的意義や、1960年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。	定期考査	定期考査 ワークシート レポート	ワークシート レポート

※令和４年度以降入学生用

3	激動する世界と日本	1経済大国への道 2冷戦の終結と日本社会の変容	a:ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。 b:日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 c:第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。	ワークシート	ワークシート	ワークシート
	問題演習	政治史 社会史 文化史 問題演習	a:歴史的事象について正確な知識を獲得し、日本近現代史を一連の流れの中で理解している。 b:正確な知識をもとに、相互の関係性や歴史的文脈のなかで、政治、経済、社会、文化の動きを相互に関連性を考えることができる。 c:これまで学習した内容から、自分で問いを考えることができる。	ワークシート	ワークシート	ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度